

民報

あばしり

NO.1017

2015・4・26

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二、四四五八  
F 四三二、四四五七

—全道34市で一番高い—

# 国保料下げしてほしい！

「国保料が高くて払えない」「国保料納めたら、生活が苦しい」

多くの市民が嘆いています。ポータスは無い、臨時収入もない年金生活者も年金から天引き。「何とかして！」

## 市民の願いは

### 国保料を下げることに。

1世帯1万円引き下げのために必要な財源は約6千万円。11億円近い基金を使えば、すぐ実現できるのです。

また、国は27年度予算で国民健康保険へ財政支援1700億円を計上しました。

道負担、市負担もありますが申請すれば一定の金額が市に入ります。

市がこの申請をするよう、共産党は新しい議会で主張します。



## 安心して子育てしたい

給料日の前に子どもが熱を出した。病院に連れて行きたいけど…一瞬迷ってしまってお母さん。

新日本婦人の会や多くの市民、そして日本共産党は、全国各地で子どもの医療費無料化を求める運動をしてきました。

中学卒業まで医療費の助成を行っている自治体は4年前の約2割から通院で5割、入院で6割に広がりました。

網走でも運動してきましたが北海道全体の運動が実り、道の助成で0、3歳未満児は無料、3歳以上 就学前児童は通院負担は2割から1割となりました。

## 入院費は無料になりました

そして、26年度から、網走市は独自に中学校卒業まで入院費の無料化を実現するに至りました。子育て中のお父さんお母さんにとって嬉しいことです。

日本共産党網走市委員会は、中学校卒業まで、通院の無料化をめざして、みなさんと力を合わせたいと考えています。

## うちのおばあちゃんが 入れる施設がほしい

介護が大変です。老々介護、介護のための離職、介護疲れによる不幸な事件…。誰もが「我が事」になる問題です。今、網走の特別養護老人ホームの入居待機者は350人。

特養ホームの増設、増床は緊急の課題です。このままでは、死ぬまで待機になりかねません。

高齢者の安心は、家族みんなの安心です。低所得者でも入居できる施設をみんなで求めましょう。

「強いものには味方はいらないが、弱い者には味方がいる」これが政治の根本なのです。

自宅介護で時間や生活の余裕がなくなり、心の余裕まで失ってしまおう、こんな家族を減らす無くすために、日本共産党は奮闘します。



## 流水

ずいぶんと遅くまで融け残っていた雪も、さすがになくなってきました。網走の遅い春も、やがて一斉に咲き出す花々で色鮮やかになることでしょう。▼今も、

北海道が生んだすぐれた政治家、小笠原貞子（故人）のことが懐かしく思い出されます。その小笠原さんの後を継いだのが、1989年の参議院選挙（当時北海道選挙区）で初当選した高崎裕子さんでした。高崎さんは弁護士でしたが、幼い2人の子の母親という大変な時期に日本共産党の議員として大活躍されたのです（現在、ご夫婦でたかさき法律事務所を運営）、その活躍の一部と思いを綴ったエッセイ集を読み返す機会がありました。「ゆう子 春みいーつけた」です。その「まえがき」に「自然の春は、時の流れとともに訪れるけれど、政治の春は、私たちが力を合わせなければ、たぐり寄せる事はできません。」という一節があります。▼「消費税増税で社会保障の財源に」のはずなのに、年金を切り下げ、介護保険料・利用料増、医療費負担増…、極めつけは憲法かなぐり捨てて戦争する国へ、今や政治は「冬」です。▼共産党の議席が国会でも地方でも増え続けています。戦争はいやだ、住民の福祉やくらしを守るの力が共産党への期待となつて草の根から広がっています。▼固い雪の下で融けて流れ始める水のように、花開く日を耐えて待つ花のように、私たちの運動は広がっています。高崎さんの書いたようにあたらしい「政治の春」をみんなであたり寄せたいですね。（〇）